

自己評価・外部評価・運営推進会議活用ツール

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述	運営推進会議で話しあった内容	外部評価	記述
I.理念・安心と安全に基づく運営							
1		地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者が穏やかな生活が送れるように『ゆっくりのこころ』という理念を掲げ利用者第一の介護サービスを実践している。迷ったら「ゆっくりのこころ」の理念に立ち返ろうと常に呼びかけている。また、理念に沿った介護が出来るように毎月のフロア会議で話し合いの場をもうけている。			・「ゆっくりのこころ」という理念を掲げ、利用者第一の介護サービスを実践しています。迷ったときは理念に立ち返るよう呼びかけ、毎月のフロア会議でも理念に沿った介護について話し合っています。
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	村岡地区社協の事業に参加し地域の福祉事業所ネットワーク部会の中で必要な情報の共有を行っている。また、地域の老人会とも交流を図っている。今後は地域住民と利用者が直接交流できるような場をもうけていきたい。	・並木台町内会は若い方が増えてきて、電子回覧板や町内会グループラインを活用している。花樹もグループラインで施設のことを話題にしてみては。 ・先日の1日清掃日には近隣の施設が参加していたので花樹も是非。		・地域との付き合いについては昨年も課題になっていたが、この一年あまり進展しなかった。改めて今後の課題としたい。
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	地域運営推進会議では利用者の現況、職員の異動、事故の有無等を確認している。また委員の皆様から広く意見を頂戴し事業の運営に活かしている。	・日程が決まるのが遅いため都合のつかない方が多く、月によって参加人数にばらつきがある。事前に開催曜日等を設定してはどうか。		・今後の開催は奇数月の第3金曜日とする。 ・年6回の機会を十分に生かして、今後の運営に役立てていきたい。
4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	2か月に1回行われるグループホーム連絡会の場に藤沢市介護保険課の職員が参加し都度意見交換を行っている。月に1度介護相談員が来訪し施設の現況を見てもらっている。	・相談員は利用者様としっかり向き合って話してくださるのでありがたい存在。 ・近年は相談員のなり手がいなくなってきた一方で、運営推進会議に参加する相談員もいる。		・今後も「外部の目」としての相談員にご協力をお願いしたい。
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	年間4回身体拘束適正化委員会を開催している。ここでは具体的なケアの方針の確認、職員研修の内容などを検討している。研修は年2回行っている。		☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・「これは拘束なのか安全を優先しているのか」「利用者目線で考えているか」という問題を常に念頭に置き、勉強し続けて行くことが大切なのではないか。

6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	高齢者虐待防止委員会を開催している。職員研修では虐待の事例や自己点検シート等を用いて意識の啓発を促している。		☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・「何が虐待か」を学ぶ機会是非常に重要だと思っている。引き続き情報を小まめにアップデートして職員と共有していく。
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	管理者は権利擁護に関する支援が必要と認めた時は法人の代表を含む運営会議において相談し話し合いを設けている。また、職員には権利擁護の意義についての研修を行っている。			・制度を必要に応じて適切に活用できる基盤が整えられている。今後も研修や会議を通じて制度理解を深め、実践に結びつけることで、さらなる権利擁護の充実を計る。
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入所時には花樹の重要事項説明書、契約書、特徴などを十分説明し、理解、納得を図っている。変更時には家族会を開き説明している。			・契約に関する説明責任が十分に果たされており、利用者・家族の安心感につながっている。今後も説明の場を継続的に設けていく。
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	苦情、意見等申立の機関を重要事項説明書に明記し、契約時に説明している。家族の来訪時や家族会等で意見、要望を聞き入れ、ご家族とはメール等も活用し、いつでも意見交換や要望を聞き入れるようにしている。		☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・ご家族とはグループラインでまめに連絡を取り合っている。行事の写真なども共有して、ご家族からも好評を得ている。
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	月に1度フロアごとに会議を行い、利用者のケア、目標、行事や施設の運営について話し合っていて決めている。			・今後も意見交換の場を継続し、さに職員の多様な視点を活かすことで、より質の高い運営につなげていく。
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	年に1回昇給する制度を設けている。この際、個々の職員の努力や実績を勘案して給与に反映されるようにしている。また、キャリアパス制度によって資格等の取得状況により昇給する仕組みが出来ている。		A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・制度の運用を継続し、職員の声を反映しながらさらなる環境改善を進めることで、働きやすさとサービスの質の両立を図る。
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	新人研修や各種外部研修には参加を促している。中堅社員は認知症介護実践者研修に参加し、必要と思われる知識は社内研修で全職員を対象に実施し全職員が介護レベル		A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・今後も研修内容の充実や継続的な振り返りを行うことで、さらなる専門性の強化と人材育成の深化を図る。

				の向上を図れるよう取り組んでいる。			
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	☒ A. 十分にできている ☐ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	藤沢市グループホーム連絡会に参加し、同連絡会の研修会を企画・参加している。			・交流を通じて得られた知見を事業所内に還元することで、職員の専門性や視野の拡大につながり、利用者へのサービス提供にも良い影響を与えている。
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	☒ A. 十分にできている ☐ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	私たちは、入居者の方々を生活の主体者として捉えて、一人一人の思いや行動を尊重しながら、対等な関係性を築くことを心がけている。 食事の準備や洗濯などの生活場面において、できることは一緒に行い、入居者の方が役割を持てるよう支援している。また、日常の会話や活動を通じて、互いに笑い合い、悩みを共有し、喜びを分かち合う関係をはぐくんでいる。 利用者を家族の一員として日々対応している。介護も本人の意思を尊重して行っている。 利用者が不安や訴えなどある時は必ず傾聴し寄り添っている			・花樹では評価項目にある「本人を介護される一方の立場に置かない」ことが大切なキーワードだと認識しており、今後も介護に反映していきたいと考えている。
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	☒ A. 十分にできている ☐ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	家族以外の知人、友人なども来てもらえるようにしている。面会の申し込みがあれば家族と相談し対応する。			・今後も地域や友人との交流機会を支援することで、利用者が孤立することなく、安心感や生きがいをもちながら生活が続けられる環境を維持する。
Ⅱ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	☒ A. 十分にできている ☐ B. ほぼできている ☐ C. あまりできていない ☐ D. ほとんどできていない	日常生活の自立を支援するため、本人を中心に家族とも相談してアセスメントシートを作成し、本人の意思、意向に沿ったケアを行っている。			・今後も本人・家族との対話を継続し、意向の変化に柔軟に対応することで、さらに質の高いケアを提供するように努める。

				サービス担当者会議にはできる限り家族に参加してもらい本人の意向を話してもらっている。			
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	介護計画は、日常的にケアを行う職員が中心となり、本人の生活の様子や変化を把握しながら作成・見直しを行っている。 また、本人の活動や表情を写真や動画で記録し、職員間やご家族と共有することで、本人の暮らしぶりを具体的に伝え、ケアの方向性を確認し合う機会にもつなげている。 毎日、ケアプラン達成表をチェックして介護計画に沿ったケアが出来ているか確認している。。 毎月のフロア会議では一人ひとりのケアの見直しをして職員で共有している。 介護計画作成のみならず日頃からご家族との意見交換、報告連絡相談を大事に考えている。		☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・介護計画は、職員が本人の生活の様子や変化を把握しながら作成・見直しを行い、家族とも意見交換をしている。写真や動画で本人の様子を共有し、計画の実効性と透明性を高めていく。
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者ごとにケアプラン達成表を作り毎日チェックしている。この達成表をもとに職員間でケアの状況、達成状況をみて支援内容の変更等を行っている。		☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・利用者ごとのケアプラン達成表の作成と記録により、一人ひとりに応じた柔軟な対応ができている。今後も記録の精度を高め、共有の場を継続していく。
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	病院の付き添いや訪問診療の情報共有など利用者のニーズに即して対応している。			・今後も多様なニーズに柔軟に対応していく。
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	自治会、子供会、民生委員、ボランティア、警察、地域包括センター、消防等の地域資源を把握、活用しながら利用者支援をしている。			・今後はさらに地域資源との関係を深め、相互協力の仕組みを強化したい。

21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	医療連携により主治医の訪問診療を月に二回受け、健康管理を行っている。緊急時にも主治医や看護師と連絡、指示を取れる体制をとり、利用者の健康管理を行っている。			・継続的な医療連携を維持し、利用者の健康状態に応じた柔軟な対応を行っていく。
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入院先の看護師や相談員と家族との情報交換を行い、安心して治療が受けられるように支援している。退院時には退院前カンファレンスを依頼し入院時の様子や退院後のケアの方法について意見交換を行うようにしている。		☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・入退院時の医療機関との協働体制が整えられており、利用者・家族に安心感を与えるとともに、継続的なケアの質向上につながっている。今後とも、切れ目のない支援体制の充実を図る。
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居時には重度化した時の対応方針を説明している。終末期が近づいた段階で医師と家族、施設の3者で協議の場を持ち今後の対応について話し合っている。また、本人やご家族の思いをくみ取ることが出来るようコミュニケーション能力の向上をはかっている。		☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・今後も継続的な対話と協働を重ねることで、利用者と家族が安心して終末期を迎えられる体制の維持強化に努める。
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	看護師から応急手当の指導を受けている。また、急変時の対応マニュアルを作成し緊急時の対応方法研修を行っている。グループホーム連絡会の主催で行われる救急救命講習を受講し救急隊員から指導を受けている。また、マニュアルやフローチャートは定期的に見直す。			・実践的かつ多面的な訓練が行われている。今後も定期的な訓練と改善を重ねることで、利用者の安全と安心を守りたい。
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	火災や地震などの災害時に備え、避難方法や対応手順についてのマニュアルを整備し、職員への周知と訓練を定期的に行い、日中の時間と夜間帯の災害を分けて想定した訓練を行っている。 また災害時伝言ダイヤルを職員、家族全員で活用するための訓練を行っている。 避難の際の地域と協力連携体制を		☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・今後も訓練の継続と地域との協働を強化する

				築いていくために普段から交流をはかっていく。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
26	一人ひとりの尊重 とプライバシーの 確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライ バシーを損ねない言葉かけや対応をして いる	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者第一の介護サービスの提供 を心掛けており、利用者それぞれに 合った声掛け接し方で対応してい る。		☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・利用者の思いや個性に寄り添った対 応を継続していく。
27	日々のその人らし い暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりの日常生活における希 望や意向、暮らしのペースを大切にし、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者個々のペースを大切にし、 希望に沿った日々を送ることが出来 るように支援している。			・今後も利用者の声を丁寧にくみ取り ながら柔軟な支援を継続する。
28	食事を楽しむこと のできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひと りの好みや力を活かしながら、利用者と 職員が一緒に準備や食事、片付けをして いる	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員と利用者が庭で育てた野菜を 収穫し調理し、利用者が食べたいメ ニューを提案し、職員と利用者で食 事を作り食生活を楽しんでいる。		☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・季節の食材や利用者の嗜好を取り 入れながら、食事を生活の楽しみや交 流の機会として活かしていく。
29	栄養摂取や水分確 保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日 を通じて確保できるよう、一人ひとりの状 態や力、習慣に応じた支援をしている	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	食事の摂取量を毎食確認し、本人 の様子に合わせ味を工夫したりして いる。主治医と連携し栄養状態につ いて必要な助言を得ている。			・食を通じて日々の生活の質を高める と共に、安心して食生活を送れる環境 を維持していく。
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎 食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力 に応じた口腔ケアをしている	A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者全員が毎食後に口腔ケアを 実施している。職員が必要に応じて 歯磨きや義歯の洗浄を介助してい る。月に二回の訪問歯科診療で歯科 医から直接口腔内のケアについて指 示を受けている。		☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・定期的な専門的助言を活かしなが ら、利用者の状態に応じたきめ細やか な口腔ケアを継続していく。
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一 人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を 活かして、トイレでの排泄や排泄の自立 にむけた支援、便秘の予防等、個々に応 じた予防に取り組んでいる	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人の尿意便意のパターンを把握 し極力トイレで排泄していただしてい る。失禁があれば清拭している。排 便チェック表を用い、常に状態を把 握している。		☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・排泄の自立支援を続けることで、利 用者の尊厳保持と生活の質を担保し ていく。

38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者から希望があれば家族へ電話をしたり、お手紙等を書いて出している。いつでも手紙が書けるように便せんや封筒などは常備している。			・利用者の希望を尊重しながら、豊かな人間関係を支援していく。
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	G cx		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・共用空間は不快や混乱を招くことなく、安心感と楽しさを提供できている。
IV. 本人暮らしの状況把握・確認項目（利用者一人ひとりの確認項目）							
40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員は常日頃から利用者の意向や願いをくみ取るように心がけている。くみ取った意向はケア会議で情報共有し利用者の意向に沿った暮らしが出来るように話し合っている。			日常的に利用者の意向を丁寧にくみ取り、職員で情報を共有しながら、生活の場面に反映できるよう話し合いを重ねていく。
41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居時に本人の生活歴や性格、好きな食べ物等を家族や担当ケアマネなどに教えてもらっている。これをもとに普段の生活状況と併せてケアプランの作成の参考にしている。			入居時から詳細な情報収集を行い、個別性の高いケアプランの作成とケア・支援を行っていく。
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	1 日 2 回のバイタル測定や食事・水分量の把握、細かな状態変化の有無の確認を怠らず、医療支援として月 2 回の訪問診療と看護師による健康観察の体制も整えている。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・日々のバイタル測定や食事・水分量の確認を行い、主治医や看護師と連携しながら、利用者の健康と安全に配慮した支援をしていく。
43	生活の継続性	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	朝起きる時間、夜寝る時間など決まりに縛られることなく、利用者個々の意向に沿って生活していただいている。			・利用者一人ひとりの生活習慣やペースを尊重し、決まりに縛られることなく、その人らしい日常を送れるよう支援していく。
44		本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近（自室等）に持つことができている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	居室には仏壇や位牌、家族の写真など大切なものを居室に置いていただいている。家族には入居時に馴染		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・普段の生活の中でも、馴染みの物や愛着のある品に囲まれて過ごすことで、安心感や心の安定につながるよう支援していく。

				みの物を置いてくださいとお願いしている。			
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができる	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員体制の都合による面はあるが、外出や催事への参加の支援に努めている。 ご家族からの申し出があった際には、外出に向けた準備や情報共有を行い、安心して出かけられるよう支援している。 散歩に行きたい、外の空気を吸いたい等の要望があれば極力対応している。			・本人やご家族の希望を丁寧に聞き取り、できる限り希望に沿った支援を行っていく。また、事前準備や情報共有を行い、安心して参加できるよう努めていく。
46	本人が持つ力の活用	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができる	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者のADLに合わせて「できること」、「わかること」を活かせるように手摺を追加したり、段差の解消により安全で自立した生活が出来るように工夫している。			・本人が自立して役割や楽しみごとに取り組めるよう、日常生活の中で支援を続けていく。
47		本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができる	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者同士で会話するばかりではなく職員と利用者が1対1でゆっくりと会話できるようにしている。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・日常の中で、笑顔や交流が生まれるよう、活動やコミュニケーションの機会を積極的に設けていく。
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができる	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	近隣の方が定期的にボランティアに来てくれている。また、散歩で地域の人と行き会った時には挨拶している。			・利用者が地域社会と自然に交流できる機会を大切にしていく。
49	総合	本人は、この GH にいることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができる	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日々のケアにおいて、本人の表情や動作、体調の変化を丁寧に観察し、それに応じた声かけや対応を心がけている。 また、本人の「こうしたい」「こうありたい」という思いを尊重し、できる限り希望に沿った支援を行うよう努めている。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・本人の希望を尊重し、職員や地域の方々との交流を通じて、安心して穏やかな日々を過ごせるよう支援していく。